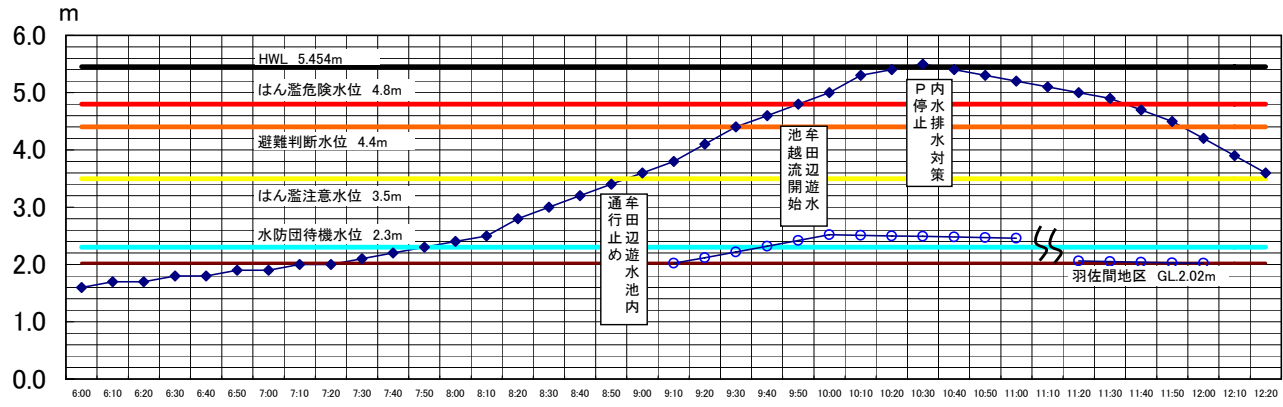


平成22年6月6日多久市防災避難訓練シナリオ(案)



気象情報

6:00 多久地区に大雨・洪水警報発令

9:00 多久地区に土砂災害警報発令

12:00 多久地区の土砂災害警報解除

事象

6:30 冠水地区の冠水

6:30 市道冠水

9:00 古賀・冠水地区の冠水

9:40 冠水地区の冠水

9:50 冠水地区の冠水

10:10 冠水地区の冠水

多久市

6:15 本部に災害対策連絡

8:30 災害対策本部設置

8:40 古賀・冠水地区の冠水

9:10 古賀・冠水地区の冠水

9:30 市道冠水

9:40 古賀・冠水地区の冠水

9:50 古賀・冠水地区の冠水

10:00 古賀・冠水地区の冠水

10:20 古賀・冠水地区の冠水

10:30 古賀・冠水地区の冠水

11:30 古賀・冠水地区の冠水

11:50 古賀・冠水地区の冠水

12:00 古賀・冠水地区の冠水

(天吊液晶テレビ) テレビ1(佐賀県経由映像) 砂見CCTV 羽佐間CCTV 妙見CCTV
(ブラウン管テレビ) テレビ2(武雄河川からの映像) 羽佐間CCTV ヘリ 羽佐間CCTV

佐賀県

9:50 自衛隊に救助を要請

10:20 映像を市へ配

事務所

6:00 注意警報発令

7:50 水防団待機水位

8:30 水防団待機水位

9:00 水防団待機水位

9:40 水防団待機水位

10:00 水防団待機水位

10:20 水防団待機水位

11:40 水防団待機水位

12:00 水防団待機水位

整備局

10:20 10:25 災害対策本部

支援

9:30 市道冠水

10:00 市道冠水

10:10 市道冠水

10:20 市道冠水

10:30 市道冠水

10:00 10:20 ポンプ車出動

10:00 11:00 CCTV映像配信(多久市へ)

警察・自衛隊・NTT

6:30 警察による通行止め

10:00 地区に自衛隊を要請

10:10 地区に自衛隊を要請

10:30 地区に自衛隊を要請

11:50 NTTは避難所へ出動し、現地で緊急電話を設置(避難者は災害伝言ダイヤル171を体験)

防災避難訓練現地箇所図

【整備局対策本部】
防災情報室

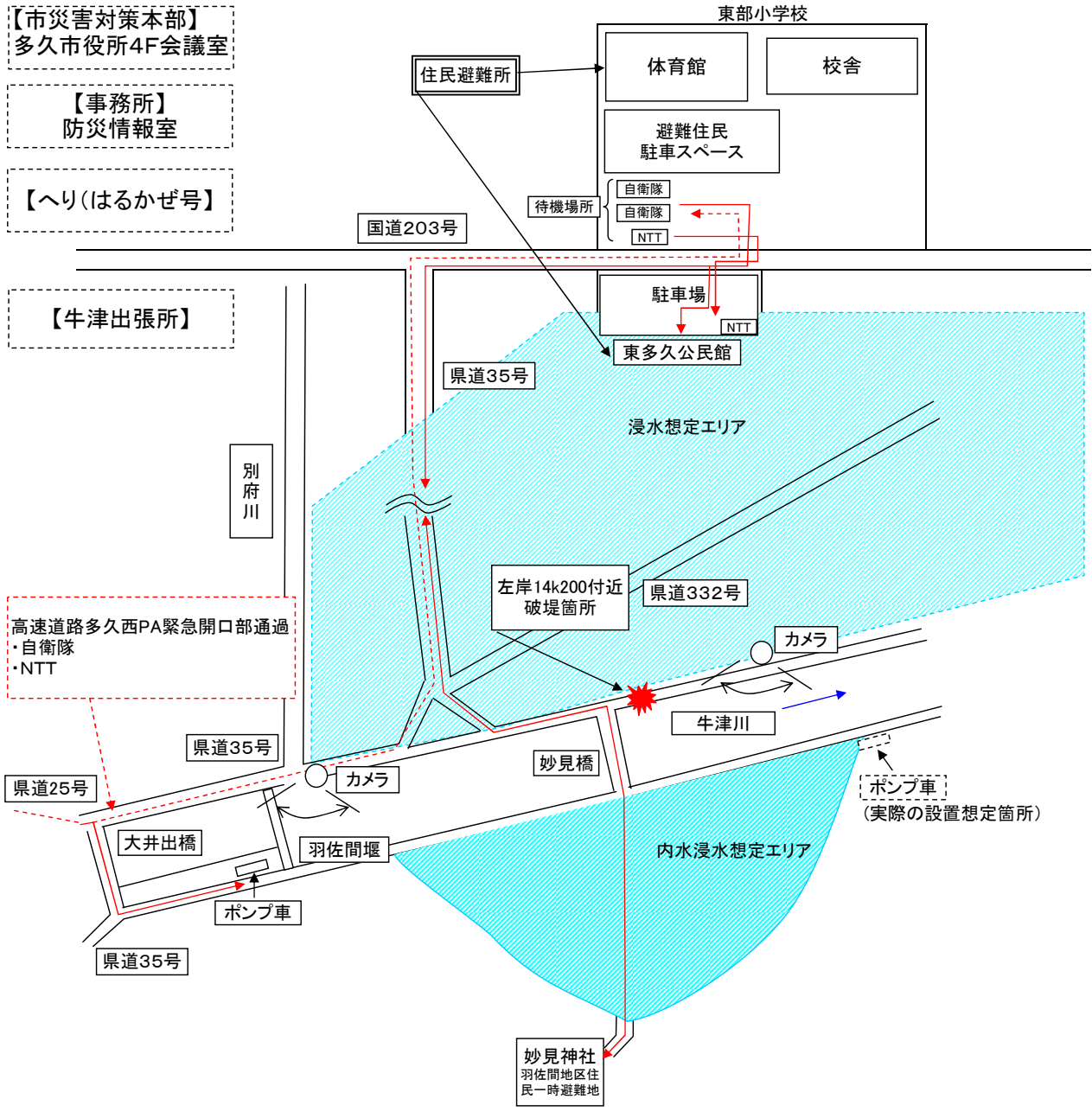
【市災害対策本部】
多久市役所4F会議室

【事務所】
防災情報室

【へり(はるかぜ号)】

【牛津出張所】

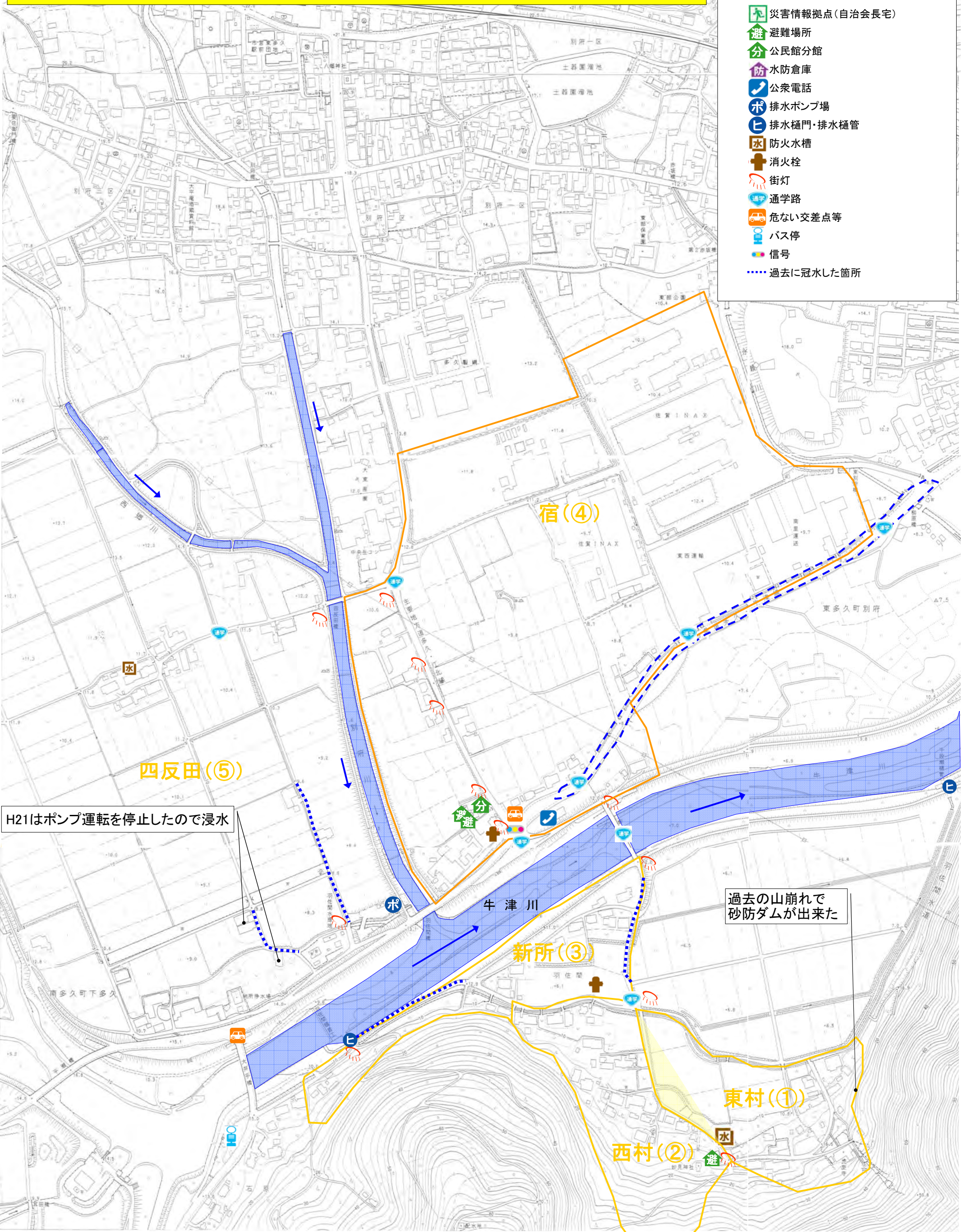
高速道路多久西PA緊急開口部通過
・自衛隊
・NTT



東多久町羽佐間 防災・安全・安心マップ

凡 例

- 災害情報拠点(自治会長宅)
- 避難場所
- 公民館分館
- 水防倉庫
- 公衆電話
- 排水ポンプ場
- 排水樋門・排水樋管
- 防火水槽
- 消火栓
- 街灯
- 通学路
- 危ない交差点等
- バス停
- 信号
- 過去に冠水した箇所



H21はポンプ運転を停止したので浸水

過去の山崩れで砂防ダムが出来た

宿(4)

四反田(5)

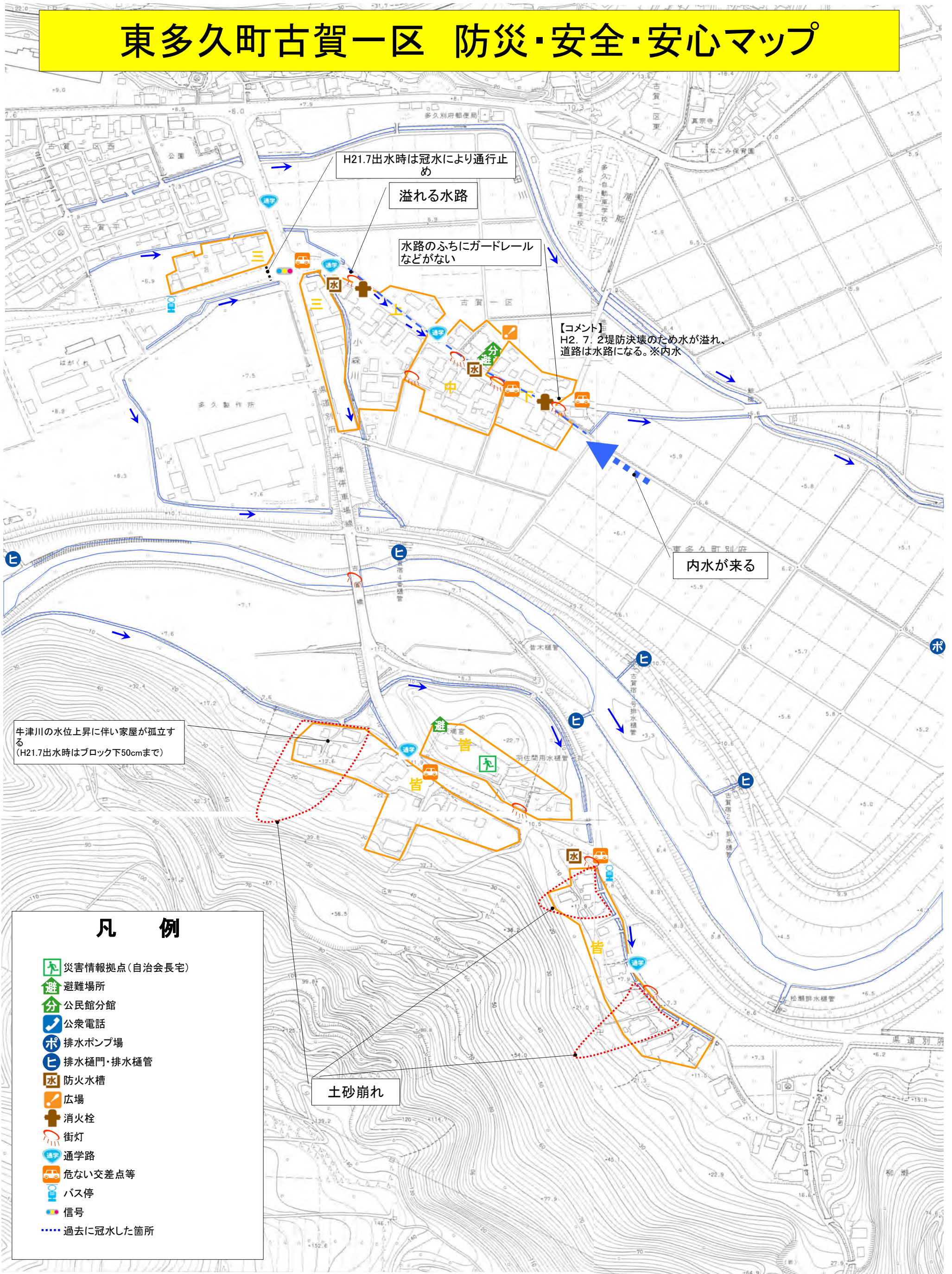
新所(3)

東村(1)

西村(2)

牛津川

東多久町古賀一区 防災・安全・安心マップ



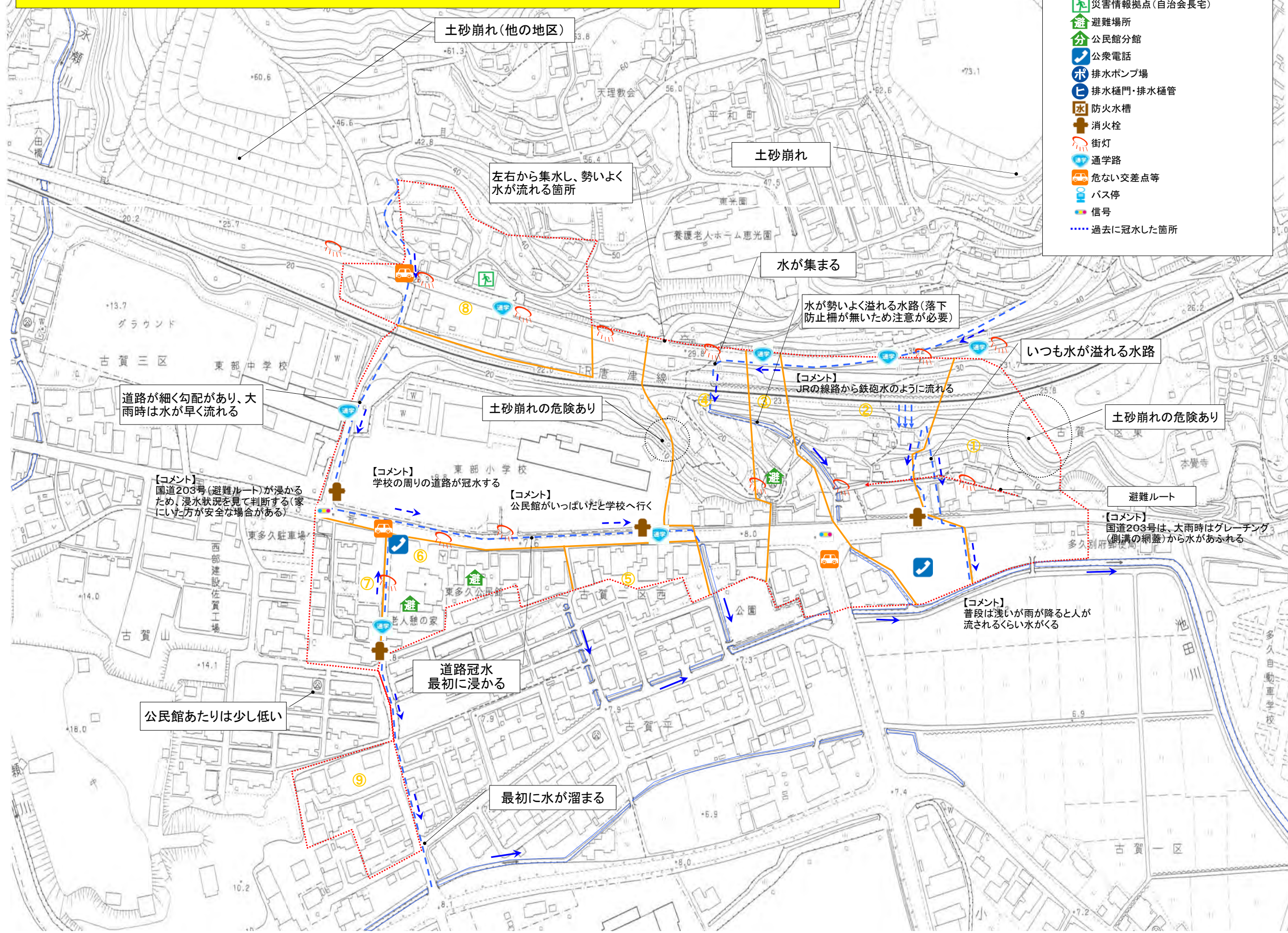
凡 例

- 災害情報拠点(自治会長宅)
- 避難場所
- 公民館分館
- 公衆電話
- 排水ポンプ場
- 排水樋門・排水樋管
- 防火水槽
- 広場
- 消火栓
- 街灯
- 通学路
- 危ない交差点等
- バス停
- 信号
- 過去に冠水した箇所

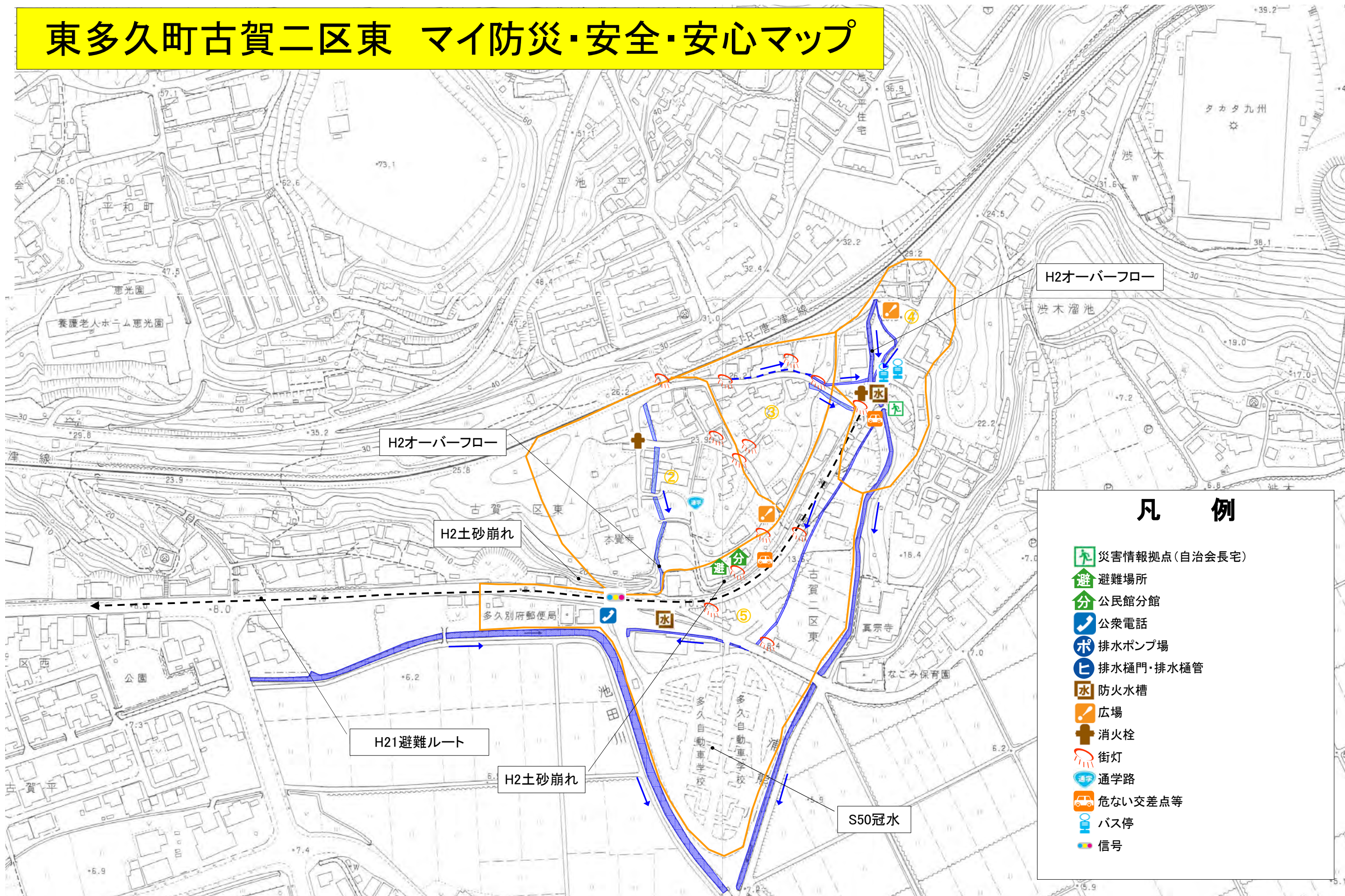
東多久町古賀二区西 マイ防災・安全・安心マップ

凡例

-  災害情報拠点(自治会長宅)
-  避難場所
-  公民館分館
-  公衆電話
-  排水ポンプ場
-  排水樋門・排水樋管
-  防火水槽
-  消火栓
-  街灯
-  通学路
-  危ない交差点等
-  バス停
-  信号
-  過去に冠水した箇所



東多久町古賀二区東 マイ防災・安全・安心マップ



東多久町古賀山・古賀平 防災・安全・安心マップ



凡例

- 災害情報拠点(自治会長宅)
- 避難場所
- 公民館分館
- 公衆電話
- 排水ポンプ場
- 排水樋門・排水樋管
- 防火水槽
- 広場
- 消火栓
- 街灯
- 通学路
- 危ない交差点等
- バス停
- 病院
- 信号
- 過去に冠水した箇所

多久市防災避難訓練に約500名参加！！ ～住民による手作り防災マップを活用した避難訓練～

平成22年6月6日(日)午前中、平成21年7月に発生した牛津川出水で、多久市が初の避難勧告発令を出した時の教訓を踏まえて住民避難訓練を実施するとともに、有識者、国、県、市町、民間が連携して取り組んで推進している「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」の施策と国の支援策を取り入れた総合防災訓練を実施しました。

訓練には東多久町、南多久町の住民をはじめ、多久市、国(整備局・事務所)、陸上自衛隊、佐賀県、民間企業など**13機関約500名**が参加し、**大規模な訓練**となりました。

NHK佐賀放送局と佐賀新聞の取材があり、NHKは当日の昼と夕方のニュースで報道され、佐賀新聞にも新聞記事が掲載されました。

今回は多久市の提案で避難訓練が実施されましたが、今後は他の市町へも**自助・共助・公助による地域防災力が高まっていく**ことを期待します。



多久市災害対策本部



CCTV等配信映像(本部)



東多久公民館(避難所)への避難状況



インターネットによる遠隔防災会議(本部)



民放ケーブルテレビによる
ポンプ車排水訓練状況
<東多久公民館(避難所)にて>



民放ケーブルテレビによる
はるかぜ号からの配信映像
<東多久公民館(避難所)にて>



自衛隊・NTTによる
高速多久PA緊急開口部
通行訓練



自衛隊による
孤立者救助搬送訓練

大規模浸水危機管理計画の施策のうち
今回訓練での実施メニュー

1. 情報収集・伝達

番号	項目	参加連携機関				多久市避難訓練で実施
		国	県	市町	民間	
1	ラジオによる情報伝達	○	○	○	○	—
2	防災情報総合掲示板	○	○	○	○	—
3	ヘリテレによる画像の生中継	○	○	○	○	○
4	CCTV画像による浸水状況把握	○	○	○	○	○
5	民間からの情報提供	○	○	○	○	—
6	リエゾン制度	○	○	○	○	—
7	高速道路における道路情報等の提供	○	○	○	○	—
8	河川・防災情報表示板の設置	○	○	○	○	—
9	地上デジタルテレビ放送を活用した河川防災情報提供	○	○	○	○	—
10	ケーブルテレビ放送を活用した河川防災情報提供	○	○	○	○	○
11	気候変化のモニタリング	○	○	○	○	—

2. 広域広播・緊急輸送路ネットワーク

番号	項目	参加連携機関				多久市避難訓練で実施
		国	県	市町	民間	
1	地域高規格道路等の河川堤防の接続	○	○	○	○	—
2	一般道路の路面高確認	○	○	○	○	○
3	河川管理用通路の確保	○	○	○	○	—
4	防災ステーション等の整備	○	○	○	○	—
5	SA、PAでの接続ポイント	○	○	○	○	○

3. 連携強化

番号	項目	参加連携機関				多久市避難訓練で実施
		国	県	市町	民間	
1	避難所整備ガイドライン	○	○	○	○	○
2	避難所の位置及び構造の評価	○	○	○	○	○
3	防災まちづくり	○	○	○	○	○
4	実務者連絡会の実施	○	○	○	○	—
5	マスコミとの勉強会の実施	○	○	○	○	—
6	避難行動計画の策定支援	○	○	○	○	○
7	避難勧告、指示判断基準の策定訓練	○	○	○	○	○
8	危機管理対策訓練の実施	○	○	○	○	○
9	ボランティアと連携した救助体制の構築	○	○	○	○	—
10	避難所運営マニュアルの作成	○	○	○	○	—
11	災害時要援護者の避難支援	○	○	○	○	○

救助や避難 役割確認
牛津川流域 住民参加で防災訓練

本格的な対象とした防災訓練が、雨期を前日、多久市であった。自衛隊車両を使った避難訓練に参加する住民は多久市東多久町。

細や、インターネットを活用し行政機関を結んだ防災会議などを実施。万が一の事態に備え、それぞれの役割を確認した。行政関係者、消防団員など約230人と住民約260人が参加。自衛隊車両を使った救助訓練では、避難経路が冠水したとの想定で、東多久町羽佐間地区の住民40人を輸送用トラックで避難所まで搬送した。このほか、600個のおにぎりを作る炊き出しの訓練などもあった。

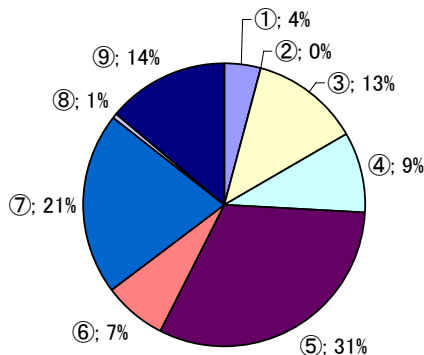
住民たちは地域の意見を、避難所運営マニュアルの策定支援や、避難所の位置及び構造の評価、防災まちづくり、実務者連絡会の実施、マスコミとの勉強会の実施、避難行動計画の策定支援、避難勧告、指示判断基準の策定訓練、危機管理対策訓練の実施、ボランティアと連携した救助体制の構築、避難所運営マニュアルの作成、災害時要援護者の避難支援

対策推進官は「巨川から防災意識を高め、いざという時のために万全の備えをしておくことが、避難所運営マニュアルの策定支援や、避難所の位置及び構造の評価、防災まちづくり、実務者連絡会の実施、マスコミとの勉強会の実施、避難行動計画の策定支援、避難勧告、指示判断基準の策定訓練、危機管理対策訓練の実施、ボランティアと連携した救助体制の構築、避難所運営マニュアルの作成、災害時要援護者の避難支援

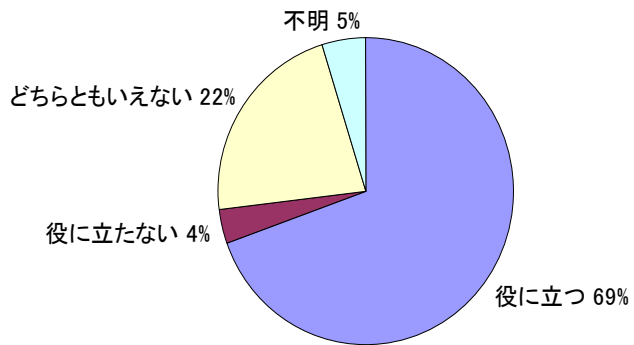
H22.6.11付
佐賀新聞(朝刊)

◎訓練参加住民アンケート結果

Q1. 実際に洪水が起こったとき、避難所へ避難するとしたら、いつ避難を決めますか？



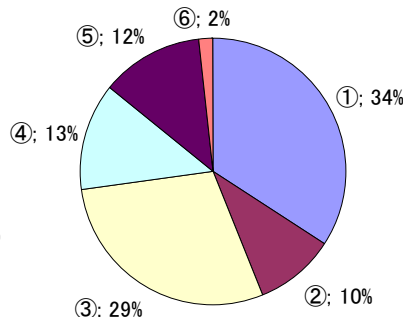
Q2. 「マイ防災マップ」は実際に災害が起きたときに役に立つと思いますか？



※役に立つが大半である(約7割)

Q3. Q2で「役に立つ」と答えた方はどのような点で役に立ちますか？

- ① テレビやラジオで河川の水位情報を確認した時 4%
- ② インターネット・携帯電話などで河川の水位情報を確認した時 0%
- ③ 実際に周囲や川の状況を確認した時 13%
- ④ テレビやラジオで避難勧告等の発令を知った時 9%
- ⑤ 防災無線で避難勧告等の発令を知った時 31%
- ⑥ 近所の人と直接もしくは電話で話し合った時 7%
- ⑦ 区長から電話連絡や訪問があった時 21%
- ⑧ その他 1%
- ⑨ 不明 14%



- ① 防災に関する場所のマークが見やすいから 34%
- ② 過去の浸水情報などが言葉で入っているから 10%
- ③ 浸水しやすい箇所が示されているから 29%
- ④ 住民が自ら手で作ったから 13%
- ⑤ 自分の地区が大きく表示されみやすいから 12%
- ⑥ その他 2%

※複数手段による情報提供が必要

※住民が自ら作成し、行動した事により、関心が高い

反省会を踏まえた課題の整理

①連絡・指示のあり方

- ・ 部署の代表電話（有線）と個人電話（携帯）とが使用され、連絡が錯綜。一本化が必要。
- ・ 情報収集が非効率。避難人数を把握しても、ボランティア人数を把握し得ない。

②食料調達のあり方

- ・ 避難人数に応じた炊き出し体制がとれていない。→資材、人材、食材を調整する必要あり。
- ・ 誰に優先的に支給するか。・・・無休で活動する消防団等のスタッフ
→要援護者の支援を行うにしても、支援要員が元気でないと行動できない。

③避難所入り口の交通整理

- ・ 国道をなかなか渡れない。
- ・ 避難所敷地内で、自動車と自転車と歩行者が錯綜。

④避難所運営体制

- ・ 運営全般、避難所のリーダー決めと、運営の段取りが課題。
- ・ 想定外の避難者への対応をどうするか。（車椅子、ペット連れなど）

⑤役割分担の明確化

- ・ 各支部長と避難所運営担当者との役割が重複しており不明瞭である。

⑥バリアフリー対策

- ・ 段差のため、車椅子が円滑に室内で入れない避難所がある。

⑦想像力を鍛える訓練

- ・ 災害対応では「想定する力」が大事。そのための訓練が必要である。

5. 訓練の課題を踏まえた対応策

上記の課題である「⑦想像力を鍛える訓練」を受け、大規模浸水を想定した机上演習を実施し、関係機関との連携方策を検討する。